

令和4年2月吉日

各 位

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
交流企画部会長 嶽崎俊郎

国際島嶼教育研究センター第217回研究会のご案内

国際島嶼教育研究センター第217回研究会を下記のとおりオンライン（Zoom）にて開催いたします。皆様方の多数のご参加を心よりお待ちしております。

記

日 時：令和4年3月7日（月）16時30分～18時

W E B：Zoom

参加費：無料（通信費は参加者負担）

日本列島南西縁地域の人類史研究
—ヒトの移動誌と文化多様性への考古学的アプローチ—

山極海嗣（琉球大学島嶼地域科学研究所）

日本列島の南西には大小さまざまな島で構成される琉球列島（あるいは南西諸島や琉球弧）と呼称する地域がある。琉球列島はさらに地理的に2～3の地域に区分することができ、その中で最も南西縁に位置する地域は南琉球（あるいは先島諸島や宮古・八重山諸島）と呼ばれている。南琉球は沖縄諸島以北の琉球列島とも異なる文化や歴史を有しており、言語や遺伝的な特徴においても地域的な特色を持っていることが明らかにされている。こうした特徴は、南琉球の人びとが他の地域とは異なる人類史を有していたことを示唆している。特に本地域は中国大陸や台湾・フィリピンなど東南アジア島嶼部とも海を隔てて接する地理にあることから、こうした周辺地域との間での歴史的な人や文化の移動・交流が注目されており、さらに、非常に古い年代（約3万年前）の化石人骨が発見されたことでより古い段階からの集団的系統や起源は大きな焦点となっている。一方で、南琉球では単純な起源関係では説明が難しいユニークな文化的特徴も確認されており、これに対しては環境的な特異性や多様性とそれに対する適応的な行動といった、この地域で特異的な文化が形成される過程やメカニズムにアプローチする研究も新たに示されている。本発表では日本列島の南西縁に位置する南琉球の地域特異的な人類史と、その背景にある人の移動誌や文化多様性形成にアプローチする近年の考古学的研究や状況について紹介し、今後のより多角的な島嶼研究についての展望や議論に繋がりたいと考える。

【オンライン（Zoom）でのご参加（要登録）】

インターネット環境とパソコン、スマートフォン、タブレット等があれば、ご自宅やオフィスからご気軽にご視聴いただけます。通信費は参加者負担となります。

オンラインでのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールにて3月3日（木）までにご連絡ください。Zoomの視聴方法については、参加登録後に届く、登録確認メールをご覧ください。

お名前（必須）：

メールアドレス（必須）：

ご所属先：

ご住所：

メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きください。

【ご連絡先】

オンライン（Zoom）（申込期限：3月3日（木））

sotayama@cpi.kagoshima-u.ac.jp（担当：山本）